令和７年１月７日

研修だより 55 号

「非認知能力の必要性③」

小笠原康晃

前号の続きです。

日本でも非認知能力の重要性が見直されました。

しかし、かつてのように特別活動や課外活動と授業を並行させて行い、子どもたちに身に付けさせることは難しくなりました。

そこで、授業の中でどのように身に付けさせていくか、が重要視されるようになりました。

以上が私見です。

実際にどのような経過があったか、という詳細は知りません。

しかし、講義を聞いている中で、前記のようだったのではないかと考えました。

非認知能力は様々なものがあります。

先生方が思い浮かべるもの、御自身が経験してきたことによって身に付いたものは、すべて非認知能力です。

非認知能力は漢字学習や計算学習と異なって、同じものを全員に身に付けさせることができません。

同じ活動をしたとしても、一人ひとりが身に付くものは異なる可能性があります。

しかし、一度身に付けてしまえば、生涯に渡って扱うことができる能力です。

袋井市型授業では「かだい」と「ふりかえり」に力を入れています。

「ふりかえり」をすることで、自分の取り組みを客観視することができます。

この「ふりかえり」は、非認知能力に繋がっていきます。